

[野菜部門 平成 31 年度 指導参考資料]

事項名	県内で初めて確認されたナスにおける根腐疫病の特徴		
ねらい	平成 30 年に県内のなすで発生した根腐症状の病原を調査した結果、県内初確認となる「ナス根腐疫病」によるものであることが明らかとなったので、その特徴を示し、診断と防除対策上の参考に供する。		
指導参考内容	<p>1 発生状況  発生地点：上北地域 1 地点 1 農家圃場  作型：露地栽培（平成 30 年 6 月下旬定植）  時期：平成 30 年 7 月下旬  品種：「長助」「紫紺仙台長」（いずれも自根栽培）  枯死株率：「長助」で 15%、「紫紺仙台長」で 68%（8 月 9 日調査）</p> <p>2 病徴  地上部は、葉が萎凋し、草丈が低く茎も細い（写真 1、写真 2）。症状が進むと落葉し、枯死に至る（写真 3）。地下部は、根が褐変腐敗し根量が少ない（写真 3）。  また、罹病根を顕微鏡観察すると、<i>Phytophthora</i> 属菌特有の卵胞子が観察される（写真 5）。症状は、褐色腐敗病の地下部感染に類似するが、本病害では、根を切断すると中心柱の褐変が認められる点が異なる（写真 4）。なお、本病害は果実には発生しない。</p> <p>3 病原菌  病斑部から分離した菌について、なすへの浸根接種、有性器官等形態の観察、遺伝子塩基配列の比較を行った結果、病原菌 <i>Phytophthora glovera</i> による「ナス根腐疫病」と同定された。この菌は土壌伝染性の病原菌であるため、被害植物残渣とともに土壌中に残り、寄主植物の栽培にともなって胞子が発芽し、地下部に感染する。</p> <p>4 防除対策  （1）連作を避ける。  （2）被害株は早急に抜き取り、作物を植えない場所に埋める等適正に処分する。  （3）機械作業等による汚染土壌の移動を防ぐ。  （4）発病圃場で使用した資材は、廃棄するか丁寧に土を洗い落とす。  （5）圃場の排水を良好にする。  （6）台木（品種：「トルバム・ビガー」「耐病 VF」「アカナス」等）を利用する。</p>		
期待される効果	なすにおける根腐疫病の原因と特徴を明らかにすることにより、早期発見が可能となり、被害拡大を防止することができる。		
利用上の注意事項	<p>1 本病害に対する登録薬剤は、平成 30 年 12 月 7 日現在ない。</p> <p>2 判断が難しい場合には、試験研究機関または病害虫防除所に確認してもらう。</p>		
問い合わせ先（電話番号）	野菜研究所 病虫部（0176-53-7085）	対象地域 及び経営体	県下全域のなす 作付経営体
発表文献等	平成 30 年度 野菜研究所試験成績概要集 第 72 回北日本病害虫研究発表会		

【根拠となった主要な試験結果】



写真1 ナス根腐疫病発生圃場 (平成30年8月9日撮影)  
(平成30年 青森野菜研)



写真2 ナス根腐疫病罹病株の症状 (萎凋  
および生育抑制) (平成30年8月9日撮影)  
(平成30年 青森野菜研)



写真3 ナス根腐疫病罹病株の症状 (落葉  
および根の褐変) (平成30年8月9日撮  
影) (平成30年 青森野菜研)



写真4 ナス根腐疫病罹病株  
の症状 (根の中心柱の褐変)  
(平成30年8月9日撮影)  
(平成30年 青森野菜研)



写真5 罹病株の根にみられ  
る卵胞子 (平成30年12月28  
日撮影、バーは10 $\mu$ m)  
(平成30年 青森野菜研)



健全株 罹病株  
写真6 接種によるナス根腐疫病的発病 (平成30年12月10日撮影)  
(平成30年 青森野菜研)